



本 堂



山門(致道館旧西門)



庫裡庭園及び石灯籠(天宥作)

法 華 宗 (陣門流)

實教山「本鏡寺」沿革

☎997-0026 山形県鶴岡市大東町15-1  
電 話 (0235) 22-3112  
羽越線鶴岡駅下車 車で10分

## 「本鏡寺」沿革

当山は往古、真言宗派として市内三日町東、矢場地近く現在の国松酒造業を入口門とし、旧第二小学校敷地跡に所在したが、享禄4年（室町12義晴将軍、105、後奈良朝 1531）法華宗総本山、長久山「本成寺」九世日覚大僧正（天文19.11、1550寂）の教化により、時の住職開祖、大覚院日定大徳（天文21.7.1552寂）法華宗に転伏改宗し、寺号を実教山「本鏡寺」と呼称した。これより寛文6年（徳川4家綱将軍、112靈元朝1666）秋、当山九世、圓了院日義大徳（寛文13.10、1673寂）の折、莊内鶴ヶ岡城主、第三代酒井忠義公（註1）より「本鏡寺高灯籠城中より望見され覚はしからず」の御沙汰あり一万坪を給され、寛文11年（1671）には、紙漉町（現大東町）に移転現在地におよび、当時「立本坊」なる脇寺も現況山門左側に存在し、羽黒山第50代別当職天宥法印の造園に相まって、その堂閣も本堂間口13間半、奥行9間、庫裡間口15間、奥行8間の威容を誇示した。これより天保年間（1830～1843）莊内酒井藩中の御徒士頭以上の菩提寺五ヶ寺（註2）の一字として第二席の格式を賜り、安政2年8月25日（徳川13家定将軍、121孝明朝1855）には、地頭職より法華宗触頭役を拝名し、この間寺門丹精により、第八代莊内藩主忠器公より褒賞を授与されし、二十一世具足院日幽大徳（弘化4.9、1847寂）、更には越後稲荷岡（現新潟県北蒲原郡紫雲寺町）の人二十二世信寿院日進（号名墨斎、鉄嶺、明治9.2寂）上人の如き書画、詩歌、茶・華道、武芸に長じた住職を輩出した。更に、明治5年8月学制発布のもと、明治7年（1874）5月より翌年にわたり、小学11校（註3）が開設され、その一校として当山にも栄町外四町を通学区域とする「本鏡学校」開設され、明治10年7才の時、文豪高山樗牛も入学し、その他著名人の教育に貢献した。然るに当山二十三世唯信院日進大徳（明治12.2寂）歿後、二十四世着任の直前、明治13年（1880）3月25日、午前3時、十日町桶職市三郎より出火、五百有戸を焼土化し、当山堂宇、仏像、什器、過去帳も悉く焼失した。これより、7月15日、当山中興二十四世、教聡院日住上人（大正8.4、1919寂）東京麻布本光寺住職より宗命により、本鏡寺に入寺し再建に励み、同年11月、新材にて本堂を、八ツ興屋農家古材にて庫裡を再建、更に明治15年（1882）6月迄には、表門、内陣、庭園等凡て成り現存過去帳も明治18年7月調成された。これより二十六世不冥院日雷聖人は36年間法灯を継承し、昭和11年（1936）6月に書院20坪の新築、43年3月には、庫裡および位牌堂28坪の増改築等寺門内外整備のかたわら、社会福祉活動に献身（昭和44年10月「藍綬褒賞」受賞）する。次いで二十

七世瑞力院日英聖人は、庫裡21坪の増改築ならびに昭和56年の宗祖七百年御遠忌の時本堂庫裡全域160坪の補強改修工事を行い、また、無縁塔を新設した。その後瑞雲院にいたり、新位牌堂80基分ならびに本堂一部拡張工事をおこない法灯相続二十八世におよんだ。(平成11, 5, 二十八世瑞雲院日行, 識之)

### 註(1) 酒井家系図

1. 忠 次——2. 家 次——3. 忠 勝 (莊内藩第一代) ——  
——4. 忠 当——5. 忠 義——6. 忠 真——7. 忠 寄——  
——8. 忠 温——9. 忠 徳——10. 忠 器——11. 忠 発——  
——12. 忠 寛——13. 15. 忠 篤  
——14. 忠 宝——16. 忠 良——17. 忠 明  
——18. 忠 久 (当主)

### 註(2) 五ヶ寺

- 第一席—(真言宗) 竜覚寺  
第二席—(浄土宗) 大督寺, (真言宗) 光明寺, (曹洞宗) 総穩寺  
(法華宗) 本鏡寺

### 註(3) 小学十一校

- 明治7年開校——本鏡学校(本鏡寺), 平田学校(禪源寺),  
華山学校(極楽寺), 雲山学校(竜蔵寺), 保春学校(保春寺),  
大宝学校(般若寺), 蓮池学校(民間), 苗秀学校(民間)  
明治8年開校——鶴山学校(常念寺), 東昌学校(東昌寺),  
啓蒙学校(民間)

## I 寺 宝

- 御本尊曼陀羅……………日蓮聖人 (建治2.8, 1276)  
書 軸 經 切 (法ヶ経)……………聖武天皇  
      〃 (般若経)……………伝教大師  
画 軸 (文珠師利菩薩)………鎌倉時代  
彫刻木像・大去垢天……………日蓮聖人

## II 建 造 物

- 山 門……………莊内藩学問所「致道館」旧西門  
明治15年 (1882) 7月建立

## III 庭 園・植 樹

- 庫裡庭園および老木…羽黒山第50代別当職天宥僧正 (寛文年間  
1661~1672在職) による造園・植樹, 桂・銀杏 (樹令350)・檜・  
水木 (200)・その他  
(本鏡寺もみの木……出羽三山中興の祖, 羽黒山石段2,446段, 杉  
並木, 祓川に須賀の滝等を設定, 神域を拡張せし天宥が当山現在  
地に代替の際, 現況位牌堂後背地にもみの木二本植樹, 一本は明  
治32年, 残り一本は大正7年伐採, 特に後者は樹令300年, 高さ  
45.76米 (25間) に伸び鶴岡市目標樹として二里四方より望見さ



万霊塔(無縁塔)



位牌堂(2棟)

れ本鏡寺もみの木として巷間に著名，陸軍省五万分の一の一地図に記載され伐採許可に2ケ年を要す。)

#### Ⅳ 石 造 物

1. 不動明王石像，庫裡庭園石灯籠 …… 天宥作
2. 旧刑場刑死者供養塔 …… 法ヶ宗総本山第42世日堂聖人巡歴の折建立（天保2年，1831，4月作）
3. 三十番神石灯籠一対 …… 天明3年（1783）8月作
4. 佐々木邦，安倍季雄歌碑

表「不覚暁」（安倍季雄）

裏「見知り顔の万才老いて来りけり」（佐々木邦筆）

（佐々木邦 …… 沼津出身，夫人鶴岡服部，進藤両氏，ユーモア作家，絵画，書道に通じ大学英文学教授として昭和21.6～23.9迄当山書院に疎開居住。

安倍季雄，（村羊） …… 鶴岡出身，戦前久留島武彦と共にお伽噺の両大家と称せられ戦時中湯野浜亀屋旅館に疎開）

5. 弭間淡遊，鶴岡美濃派初代俳諧宗匠林風草歌碑

「このおくやしじまのうへのひのあかり」

（淡遊，天保末年作）

「さびしさのとらへ所なき瓢かな」

（風 草）

#### Ⅴ 石 碑

「忠善院日詠」（元禄2.10.4,1689，里見家）

#### Ⅵ 彰 徳 碑

弭間 治平（常貞，子幹）… 莊内藩士，狙徠，尊園法王の書風を収め門人1,160有余に及ぶ（文化13.11.17,1816，行年72）

荒井 和水（伝右エ門，鶏鳴舎，昌義）… 五日町川端住人，嘉永4年・江戸心学老中村徳水を招き心学道場開設，江戸



不動明王石像(天宥作)



刑場供養塔(日堂聖人 筆)

に上り京都明倫社より都講の免許を得、庄内各地で心学を講議（安政6.4.9, 1859, 行年59）

## Ⅶ 墓 石 誌

### 1. 武山勘右工門勝愛（参臬）

鳥居河原（鳥居町）出身・庄内藩400石馬廻り役，俳諧に卓越，徳利と盃を終生の友とし，文政6年4月（1823）妻に先立たれ無常の風を受けてより更に酒に溺れ「強呑院蕩楽日寝居士」の戒名を住職に託す。観光バスガイドはこの法名を「ぐいのみいんどうらくひるねこじ」と客に伝う（天保7.1.6, 1836, 当主 東京，武山源三氏）

### 2. 長坂猪之助

槍術の達人，庄内藩師範より文政10年12月（1827）鶴岡町奉行に転ず，江戸安井仙知より囲碁六段の免許を得，江戸本因坊に一目勝を得，本因坊丈知を西33ヶ国，猪之助を東33ヶ国の大関と称し墓碑に「東33ヶ国之大関眠此下」と刻す（天保14.4.12, 1843, 善徳院秀勝日教居士 当主 鶴岡，長坂謙治氏）

### 3. 秋保政右工門（初次郎，親友，子睦，一操）

弘化2年（1845）庄内藩450石番頭，更に郡代，小姓頭，天保12年（1841）には，軍学者市川一学に長沼流を学び庄内藩軍学師範に任じ，安政元年（1854）藩令により海防軍制を編成，隊伍訓練を為す（明治4.2.7, 1871, 行年72, 遙光院休身日全居士 当主 鶴岡，秋保親良氏）

### 4. 池田 駒城（定助，讓助，雄助）

江戸で安積良斎に漢学，長崎で鉄翁に画を学び，清河八郎を交友とし，天保13年（1842）以降庄内藩公武合体藩政改革運動に加入江戸鶴岡間往復運動，慶応元年（1865）函館留守居中役に任ぜられ，医学修業中事件発覚，庄内藩吏に捕えられ，明治元年（1868）出牢，北海道の兵農引揚の為派遣され，晩年画を書いて終る（明治6.8.17, 1873, 行年56, 復道院性善居士，当主 山形，池田道晴氏）



佐々木 邦筆



安倍季雄筆

### 5. 石井 子竜 (幸右工門, 張昌, 為竜, 竜眠)

江戸後期南画家、安永7年(1778) 荘内藩士吉井丑次郎二男に生れ、後御近習石井孫七郎の養子となる。性磊落、酒を好み25才にして画を氏家天爵竜溪に師事したが拙筆なるを以て竜溪筆を放捨すべきを勧めたが、子竜去って重田鳥嶽に学び、池大雅の風を書き金峰山麓幽深溪流新山の地に庵を結び山水を画き、約20年住す(天保14.10.23,1843, 行年66, 子竜院法雨日潤居士, 当主 東京, 中村一紀氏)

### 6. 加藤昇三郎 (修蔵, 環亀軒, 賀文輝, 梅巖, 瑞園)

幸右工門の子として32才の折り江戸に上り、牧一作の軍学を修め、深川に開塾、天保11年(1840) 荘内藩転封問題に尽力、六人扶持に再出仕、兄森仲庵は鶴岡の医なり(安政3.10.24,1856, 行年79, 徳性院諦応日善居士, 当主 大阪, 加藤達郎氏)

### 7. 里 見 家

「南総里見八犬伝」里見家子孫、室町戦国時代安房館山を本域とし、上総下総12万石の領主里見家第10代忠義は、小田原城主大久保家の事件に連座、領地没収され配所伯耆倉吉歿、嗣子なく170年に及ぶ大名里見家断絶後、忠義の弟忠英(外記、讃岐守、慶安3.9.10,1650)が酒井家第一代忠次の女婿の故をもって400石を与えられ、酒井家に仕官、第三代忠勝荘内入部の折、共に鶴岡入り、之より天明2年(1782) 義裕(外記、伯門、天保11.4.11,1840, 本奥院徳栄日保居士)代には600石、亀ヶ崎城代、中老職、文政9年(1826)には家老職として1,000石、次いで酒井家八代忠温次子忠順の子として江戸藩邸出生の隆達(外記、義比、但馬、四郎 文久1.5.12,1861, 方広院殿隆達日顕居士)は、荘内藩主の分家より義裕の養嗣子として安政5年(1854)には1,200石家老職に就任す(当主 鶴岡, 里見幸英氏)

### 8. 辻宣右工門 (順治, 叔方, 鵬池) 辻庄一郎 (五郎八) 辻順治

宣右工門は、文政10年(1827)より荘内藩校致道館助教、郡奉行後に弘化元年(1844)に松山藩付家老、後大山騒動に関連、解任



弭間淡遊歌碑



林風草歌碑

された。博覧強記，剛骨才子にして，致道館助教に任ぜられていた。書に長じ致道館「孝経」の版木を記す（安政3.4.23,1856，秋月院照山日詠居士）その子，庄一郎は供頭より使番に任ぜられ江戸斎藤弥九郎に剣を学び師範代を勤め，木戸孝允を交友とし颯爽たる風采，白鞆朱鞘の長刀を帶す。後，国事に奔走明治2年，芝山内で幕府の凶刃に斃る。（明治2.5.8,1869，秀達院宥正日行居士）その孫順治は，家中新町に出生，明治33年（1900）陸軍戸山学校入学，昭和2年より7年迄第十一代陸軍戸山学校軍楽隊隊長就任，「爆弾三勇士，進軍の歌」等作曲し，その女婿はテノール歌手奥田良三にして，退任後はポリドール吹込所長，ピクチャー洋楽部長を歴任（昭和20.4.13，樂聖院義勇日順居士，当主 東京，山岡氏）

#### 9. 畑田安右工門（維憲，良作）

天保14年（1843）清川関所番を勤め，清河八郎に漢籍を学び，弘化4年（1847）藩命により清河八郎と共に江戸に上る（明治12.10.19.1879，行年47，信本院常住日極居士，当主 三川，鈴木芳子氏）

#### 10. 弭間 淡遊（貞松，合漢舎）林風草（宗弥，一株林，柳下齋）

三日町米問屋にして，美濃獅子庵蓮二に俳諧を学び，鶴ヶ岡美濃派（獅子門）初代俳諧宗匠たりし林風草（宝歴12.3.15,1762）の歌碑を天保2年（1831）当山に建立せし淡遊は莊内藩士として地主文二の門に入り「ふくべ集」を上梓し，芭蕉の正風を唱う（安政1.10.7,1854，合漢院淡遊日詠居士，当主 東京，弭間俊晶氏）

#### 11. 平田 文明（太郎右工門，曙庵）平田 安吉

三日町住人，文明は能書，俳諧を学び，地主文二の後を継ぎ，七代宗匠に，安吉は殖産に尽力，明治23年（1890）福岡県より教師を招き，乾田馬耕を庄内に普及せしめ，果樹園，牧場を開き品種改良地方産業に資す（文明，天保2.6.27,1831，賢具院理応日順居士，安吉，明治29.7.19,1896，行年40，惇徳院行浄日光居士，当主 鶴岡，平田 正氏）



武山勝愛墓石



長坂猪之助墓石

## 12. 三矢 宮松

大正年代、内務省社会局部長、朝鮮総督府警務局長、大正14(1925)～昭和15年迄帝室林野局長官、辞官後東京根津美術館長等を歴任(昭和34.1.10、行年80、雙松院殿日光東嶺大居士、当主 東京、三矢 尚氏)

## 13. 上野 禎蔵(水野行蔵、鵬、凶南) 上野 毅夫

莊内藩上野猪蔵長男、帖場係を経て、嘉永6年(1853)脱藩、江戸林鷺溪塾に学び、安井息軒、藤森弘庵、山田方谷を交友として後水野行蔵と改名、安政3年(1856)蝦夷地巡礼、開発意見書呈出、翌年江戸において国事奔走、文久2年(1862)目付、沢左近将監の臣となり、閣老板倉小笠原に攘夷、大政奉還を説き元治元年(1864)牛込に捕えられ、翌年庄内で獄死(明治1.1.4、1868、行年50、則成院是敬信士)曾孫上野毅夫は昭和6年外務省に入省、外交官として南米ブラジル各都市、ポルトガル大使館勤務、昭和47～50年迄、ブラジル、レシーフ総領事等を歴任(昭和55.7.9、行年70、秀峰院政徳日毅居士、当主 東京、上野 貞氏)

## 14. 山口宝太郎、山口将吉郎

日枝小真木出身、宝太郎の長男に将吉郎あり、幼にして父に死別、東京美術学校(東京芸大)日本画科より研究科に進み、小学同級生に美術評論家、田中一松あり、大正13年代(1924)より挿画を描き、少年・少女倶楽部等吉川英治作「神州天馬俠、月笛日笛」等少年雑誌中心に活躍し、戦後白内障に悩まされながら機関誌に大日蓮の描画を連載、近時講談社より「山口将吉郎画集」出版さる。墓石は伊豆に所在(昭和47.9.12、瑞岳玄正居士)

(附記 この小誌は、歴世に伝承すべく作成したものです。誌中、誤り或いは当山に対する新見聞ありましたならば順次改編してゆくものです。今後の御教示御協力を乞う次第です。昭和52.7 第二十七世瑞力院日英聖人、2版平成11.5 瑞雲院日行九拜)